

# 神奈川県の学童保育

## 神奈川県学童保育連絡協議会 第46回定期総会を開催



去る2021年6月27日(日)、横浜市従会館にて「神奈川県学童保育連絡協議会第46回定期総会」を開催しました。県内の地域学童保育連絡協議会の代表、個人会員等が参加し、進められました。

今回もコロナ禍での開催のため、会場参加(来賓含め9人)とリモートによる参加(16人)の併用での開催となりました。

はじめに、会長より「コロナのため、保護者会活動ができなかったクラブも多いが、オンラインも活用し、保護者会活動を再開して指導員と連携した本来の学童保育に立て直してほしい。1年を振り返り、今後の方針を皆で確かめ合う総会にしていきたい。」とあいさつがあり、その後議事に入りました。

まずは、学童保育をめぐる国、県他の情勢について会長より報告。引き続き役員会から2020年度活動報告及び決算報告、会計監査報告が提案され、質疑応答の後、賛成多数で承認されました。

その後、2021年度活動方針、予算案が提案され、若干の質疑があり、第三者評価の具体策についてとホームページの充実についての質問については、今後の研究課題であること等の回答で了承されました。

2021年度の運営委員は10地域で名前の確認があり、役員については以下の9名が承認されましたが、活動の強化をめざし、年度途中で増員を図っていくこともあわせて確認しました。

会長：小神長次

副会長：岡崎進、小関富美江、木村美登里、  
小森伸二、堀英司、山崎善明

財政局長：池谷潤

事務局長：河野眞明

事務局次長：小関富美江(兼)、山崎善明(兼)

監査役：小保方則充

午後は拡大運営委員会の位置づけで、「2022年度に向けた県への要望」について会長より提案と、地域交流として地域連協の活動の様子、地域の課題などについて3つの分散会で議論をしました。23人が参加し、学校利用施設の問題点やコロナで会議がもてなかったこと、リモートでの経験など、こもごも話し合われました。

無事総会を終え、神奈川県内の学童保育の充実をめざして、これから活動方針を具体化し、学童と保育をよくしてゆく努力を、みんなで積み上げて行きましょう。

なお、昨年度は縮小しての開催でしたが、今回は来賓を迎え、総会の冒頭あいさつをいただきました。

神奈川県次世代育成課長 川上 亮 様

一昨年度末から突然の長時間の開所を継続し、子どもの生活とあそびの場の確保に努力していただき感謝申し上げます。

指導員は1万3200人ほどいて、県は認定資格研修に取り組んでおり、9,400人ほどの認定をしてきた。

県としては引き続き、処遇改善に積極的に取り組んでいきたい。処遇改善については、先週金曜日(6/25)に県議会本会議で質問をいただいた。

これまでも県として予算を確保し、市町村を支援してきたが、市町村間でばらつきもあるので、関係団体や市町村の皆さんの意見を踏まえ、よりいっそう市町村に働きかけをしていきたい。

県議連会長 小川久仁子 様

コロナ発生当初、学童保育の現状を視察したが、そこで働く指導員の苦悩、不安を直に感じ、バックアップすることの必要性を感じた。

地域の実情をしっかりと知り、応援していくことが私たち(議員)の役目と思っている。

議員連盟の懇親会ができずにいる。懇親会は直に親しく話すことなので、いまその機会が持てない。一刻も早くコロナが収束するよう力を合わせて取り組んでいきたい。

## 第46回全国学童保育指導員学校・南関東会場

第46回全国学童保育指導員学校・南関東会場(以下、「南関東」)は、6月6日(日)に、第45回に引き続きオンラインで開催しました。第45回(2020年度)は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、6月開催を見送り2020年11月にオンラインで開催しましたが、第46回についても、東京都を中心に緊急事態宣言下であり、オンラインでの開催として準備を進めました。1都16県から579名が受講しました。

午前中は、事務局である三多摩連協会長による基調報告から始まり、保護者の目線からの指導員に向けた励ましの言葉も添えて、今、全国で起こっている状況などについて報告がありました。

そして、全体講演は増山均先生(早稲田大学名誉教授)による「子どもの権利と学童保育～コロナ禍だからこそ「子どもの最善の利益」を～」という演題で、『日本の学童ほいく』21年1月号に寄稿された『「声なきこえ」を聞き、「なにげない時間」と「名もない遊び」をも見守るゆとりを』を深める内容で、増山先生が深くかかわってこられた、子どもの権利条約31条〔①休息・余暇の権利、②遊び・レクリエーションの権利、③文化的生活・芸術への参加の権利(子どもの権利条約31条の会HPより)]から見る、子どもに保障すべき「あそび・遊び」についてお話をいただきました。

面白い、楽しいが子どもを動かす大きなエネルギーであり、大人が「遊ばせる」のではなく、子ども自らの「遊び」を保障することで「遊び」を土台として子どもは育つのだと、深く感じる内容でした。

また、午後は12講座が設けられ、例年よりも講座数は少ないものの、基礎講座(3)、実践講座(5)、理論講座(3)、特別講座(1)と充実したラインナップでした。

講師として、神奈川県内からは第1講座〔横須賀市・飛鳥井さん〕、第3講座〔横浜市・菅原さん〕、第4講座〔横須賀市・永松さん〕、第6講座〔横浜市・八木さん〕が担当しました。(第3講座は都合により横須賀市の笹川さんに変更)また、5講座のIT(Zoomホスト)や司会、記録を担当しました。

オンラインでの研修機会も増えてきました。10月開催の「第55回全国研」や、2月開催予定の「第45回かな研」もオンラインでの開催となります。遠隔地であっても参加がしやすいので、積極的に参加していきたいですね。

県連協 2021年度秋の学習会のお知らせ(オンライン併用)

## コロナ禍の学童保育 「子どもの最善の利益」を考える ～みんなで確かめ合う「放課後児童クラブ運営指針」～

講師：高橋 誠 さん(東京都文京区指導員・全国学童保育連絡協議会事務局長)

日時：2021年10月10日(日) 13時30分～16時00分

会場：横浜市健康福祉総合センター9階 小会議室901(JR「桜木町」駅下車約3分)

参加費：1,000円/人

2020年3月からの臨時休校時から、指導員、保護者をはじめとした学童保育にかかわる多くの方々が、衛生管理の徹底と学童保育の目的・役割を果たすことの狭間に戸惑い、悩んできたことと思います。改めて「放課後児童クラブ運営指針」を学び、「子どもの最善の利益」を基本に置いた「子どもたちの放課後の生活の場」を保障するために大切にしたいことを運営者、指導員、保護者、また、自治体職員や議員等学童保育にかかわる皆で確かめ合ひましょう。

参加のお申し込み(オンライン参加あり)・お問い合わせは県連協(Tel:045-662-9647)まで。



## 私のおすすめ『日本の学童ほいく』

毎月の運営委員会で、「私のおすすめ『日本の学童ほいく』」を地域持ち回りでご紹介いただいています。

6月は綾瀬の佐伯さんからおすすめをいただきました。

6月号講座『「生理の貧困」をとおして考える性の学び』を読んで、子どもたちから、高学年になると学校では性の話が出たと聞かすが、女子児童も男性職員には性のことは言えないようです。職員同士の情報共有で、生理などの話が出ることもあります。男性職員がいる前ではできません。また、自クラブでは、トイレが男女共同なので生理用品をトイレの中に置くことはできません。

講座で書かれている内容についてわかるのですが、じっさいにできるかは悩ましく感じました。

性について考えることは悪いことではもちろんないのですが、職員同士でも積極的に話し合うことは難しいです。とは言っても（だからこそ）、男性職員に読んでもらうことで、少しでも理解をしてもらえらると思うので、このように『ほいく誌』で取り上げてくれたことはありがたいと思っています。

そして、7月は横浜の小森さんからのおすすめです。

5月号「歴史を刻んできた学童クラブを次世代に受け継ぐために」より、第2どんぐりクラブの移転について、保護者が書いてくれたものです。第2どんぐりクラブは物件が少ない地域で、10月まで施設の移転が難航し補助金打ち切りギリギリの状況だった。小見出しに「マンパワーと熱量を」とあるように、チラシを7～8千枚刷り保護者の手でポスティング。地域からの情報で何とか移転をすることができた。保護者の力、地域の支えが良く書かれているので、ぜひ読んでください。とのことです。

佐伯さん、小森さん、ありがとうございました。

### 2021年7月号～8月号に掲載されている神奈川からの投稿

<2021年7月号> 特集「一人ひとりが安心して過ごせる人数に」

- ★ 子どものひろば あきとさん〔横須賀市2年生〕  
美仁さん〔横須賀市1年生〕
- ☆ 読者のひろば 東 史子さん〔横浜市指導員〕

<2020年8月号> 特集「一人ひとりを大切に 一人ひとりの気持ちに気づく」

- ★ 特集 「息子たちの成長を見守って……」 山根木葉子さん〔横浜市保護者〕
- ☆ 読者のひろば 「感動しました！」 満野美由紀さん〔横須賀市保護者〕
- ※夏に食べたい！スタミナ料理&残暑飯レシピ 稲浪エミマさん〔平塚市指導員〕

## 第56回全国学童保育研究集会



記念講演 学童保育の歴史から学び、未来をひらく

—前例のない課題に立ち向かう—

講師 石原剛志先生（静岡大学教育学部教授）



開催日：10月23日(土) 全体会（基調報告・記念講演ほか）  
10月24日(日) 分科会（39分科会）

参加費：4,000円（2日間参加でも1日のみの参加でも4,000円です）

詳細は、『日本の学童ほいく』9月号巻末か、または全国連協 HP  
(<http://www.2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou/seminar/index.html#sec20>) にて

## 活動報告(2021年6月～2021年7月の主な活動報告)

6月3日(木) オンライン研修会第2回  
 6月6日(日) 第46回全国指導員学校・南関東  
 6月17日(木) オンライン研修会第3回  
 6月27日(日) 第46回県連協定期総会  
 7月1日(木) オンライン研修会第4回  
 7月15日(木) オンライン研修会第5回

定期総会の準備のために臨時役員会や事務局会議を重ねてきました。  
 他 第1木曜日 定例運営委員会に付随し、定例役員会、定例事務局会議を実施  
 県議会各会派との意見交換会(ヒアリング)も行っています。

## ♪ 川崎市連協だより ♪

川崎市は19年前に全小学校に「わくわくプラザ」(全児童対策事業)を作る代わりに、従来あった公設と委託事業の学童保育を廃止してしまいました。しかし現在、「民間・学童保育(放課後児童クラブ)」(市のHPの表記)として市に申請している施設が22か所あります。申請している以上は、市の「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」を守る必要がありますが、どの施設も放課後児童クラブの国庫補助対象にはなっていません。というか、してくれません。

運営費≒保育料ということで、運営が厳しいのはどこも共通の課題です。しかし、新型コロナ対策関連の予算で、国が10/10出すとした補助金はでることになったのはちょっとした朗報でした。

現在、川崎市連協は11人の役員がいます。月1回の定例役員会にはほぼ全員が集まり(最近はオンライン参加が多いです)、学童保育の諸問題を考え、少しでも学童保育文化を高めようと話し合っています。また3か月に1度は加盟学童との代表者・指導員会議を開いて、情報交換と互いの課題を議論しています。最近は児童募集の方法等が共通課題で関心が高いです。

6月13日(日)に、学童ほいくオカリナにて第49回川崎市学童保育連絡協議会総会を開催いたしました。今年度は新しい企画として、オンライン学童保育間交流会「Gakudooga」(がくどーが)をやることになりました。すでに1回、4つの学童保育が5分ずつ自分の学童を子どもたちが紹介するような形で開催しています。その後、今後の企画会議(各学童保育2名程度の代表児童が参加)もオンラインで実施しました。子どもたちにとって、他の学童保育の様子を見るのは刺激的だったようです。また、企画会議は6年生だけになったので、仲間意識みたいなことも芽生えたようでした。

(川崎市学童保育連絡協議会会長 岩淵 康之)

10月号の「地域連協だより」は  
 横須賀市連協の予定です。  
 お楽しみに!



神奈川県学童保育連絡協議会HP  
<https://kanaken.onushi.com/>



## <これからの主な予定>

- 10月10日(日) 秋の学習会(講師:高橋 誠氏)・拡大運営委員会〔横浜市・健福センター〕
- 10月23日～24日 第55回全国学童保育研究集会〔オンライン〕
- 1月16日(日) 『日本の学童ほいく』普及推進会議・新春会長会〔横浜市・健福センター〕
- 2月13日(日) 第45回神奈川県学童保育研究集会(通称「かな研」)〔オンライン〕  
 \* 「かな研」の実施に向け実行委員会で検討していきます。〔第1回は9月8日(水)〕

\*その他、運営委員会は毎月第1木曜日、役員会は運営委員会の前の週の木曜日に実施しています。